

ズッキーニ

満留克俊

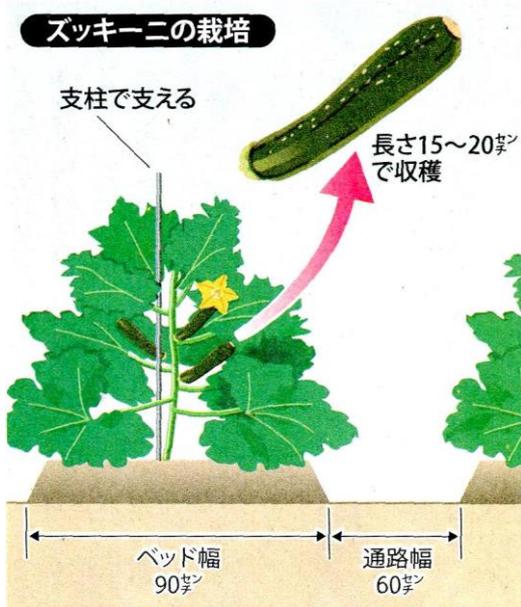
狭い菜園でも栽培可能

ズッキーニは一昔前まであまりなじみのない野菜でしたが、最近スーパーでもよく見かけるようになりました。イタリア料理には欠かせない食材です。インターネットやテレビなどで多くのレシピが紹介されており、一般の家庭でも広く利用される食材になりつつあります。食感はナスに似ていますが独特の歯応えがあり、揚げたり炒めたりすると甘味が増します。

原産地は北アメリカで、コロンブスの大陸発見後にヨーロッパに広まったといわれています。見た目は少し太いキュウリのようなのですが、実はカボチャの仲間で、一般にお店で見かけるセイヨウカボチャとは異なり、ハロウィーンなどで多く見られる観賞用のカボチャと同じペポカボチャという種類に属します。色は濃緑色や黄色のものがあ、表面は滑らかですすべしています。

栽培は易しく、カボチャのなかでもつるが伸びない立性で、少ないスペースで栽培ができるため家庭菜園にも向いています。

生育適温は果菜類のなかでは18～23度と低く、最低気温が10度以上であれば栽培が可能で、露地の移植栽培では霜の心配がなくなる4月以降の定植が適期です。4月以降であれば直播きも可能ですが、早くから収穫するためには3月中旬ごろに9～12センチのポットを利用し育苗します。床土は市販のものを利用し、1鉢に1粒種を播きます。本葉が3～4枚になったころに定植します。



畑は水はけや日当たりがよい場所を選び、播種の1週間前までにはほ場を準備し、1平方メートルあたり堆肥2キ、苦土石灰100グラム、化学肥料80グラム(チッ素、リン酸、カリ15%の場合)程度を施します。耕うん後、ベッド幅90センチ、通路幅60センチの畝を作ります。ズッキーニの葉は大きく広がるため株間は100センチとします。

つるは短く、特に誘引などは必要としませんが、風などで折れやすいため支柱などで支えをするとよいです。

種播きから50～60日程度で花が咲きます。ミツバチが飛んでいれば自然に受粉しますが、雌花が咲いたら雄花をつまんで、雌花の柱頭に花粉を付けてあげるとよく着果し、形の良いものが収穫できます。

ズッキーニは普通のカボチャと違い、開花から3～5日程度で果実の長さが15～20センチ程度のものを収穫します。3月に種を播けば5月から、4月に播けば6月から収穫が可能で1カ月近く収穫を楽しむことができます。収穫が遅くなり大果になると樹に負担がかかり上の果実が着きにくくなるので、適期に収穫しましょう。

(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室主任研究員)

平成28年2月11日(木) / 南日本新聞

